

令和元年度 嘉数小学校の取り組み

1 研究主題

児童が英語に親しみ進んでコミュニケーションを図る態度の育成
～より日常生活に結びついた英語活動を通して～

2 研究主題設定の理由

本校はこれまで英語を通じた歌やゲーム、簡単な会話などの取り組みを中心にしながら、児童が楽しく活動できるようなカリキュラム編成の工夫に努めてきた。また、登下校時やお昼の校内放送など、放送委員会の児童が英語でアナウンスを行ったり、校内の廊下や階段など、児童が目につく場所に英語の掲示物を貼ったりし、日常的に英語に触れる環境を作り、興味関心を引き出す工夫をしてきた。

また、毎時間「外国語の言葉や基本的な表現に慣れ親しませる場面（インプット）」と「外国語を活用する場面（アウトプット）」を設定した授業を行った。

その結果、児童は、英語の歌やダンスを好んで行い、友達とコミュニケーションを積極的に行うことに繋がっている。また、担任と ALT・JTE がデモンストレーションやスモールトークを見せることで、児童同士のやりとりが円滑に行われている。

そこで今年度は、前年度までに培った実践と児童の実態を踏まえ、学習形態を工夫し日常生活に結び付いた英語活動を通して、より英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指して本研究主題を設定した。

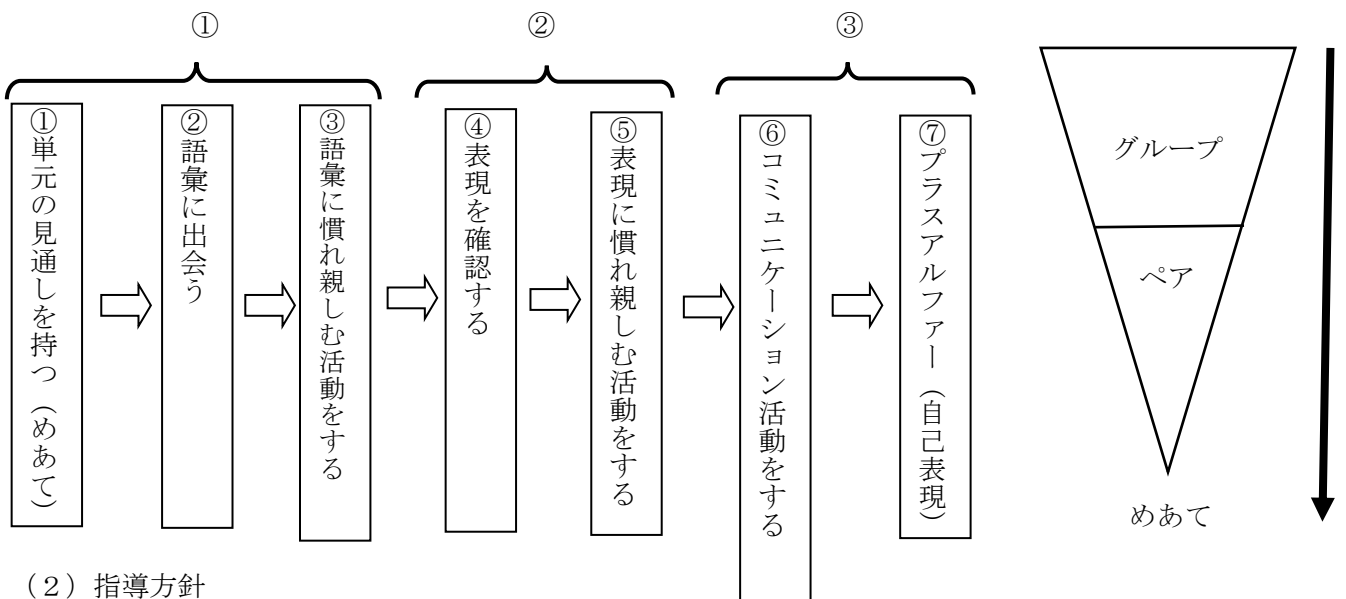
3 主な研究内容

(1) スモールステップを使った単元と授業の構成

これまでの課題からスモールステップを使い単元を構成し、授業を進めていくことにした。以下の7つのステップに分けて単元を捉えていく。そして、以下のように毎時間の授業では、まずグループ活動で周りの児童の言葉を聞きながら、語彙や表現に親しむ。その後、ペア活動で理解を深めながらやりとりができるように進めていく。

<単元の構成>

<授業の構成>



(2) 指導方針

- ① 毎週金曜日の学年会の時間にレッスンプランについてミーティングを持つ。
- ② 英語活動の時間は、担任と ALT・JTE による TT で行う。
- ③ 授業のはじめは、前時に行った授業の内容（単語や表現）を復習すること。
- ④ フォニックス指導は宜野湾市が示している内容で進めていく。（※指導は5分程度で終える。）

4. 各学年の目標

学 年		目 標	言語材料
低学年	触れる・慣れる	・歌、読み聞かせ、ゲームなどの活動を通して、英語の音、リズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れる。	挨拶・自己紹介・気持ち・曜日・天気・数・色・形・果物・野菜・動物・スポーツ・体の部分・ハロウィーン・クリスマス・家族・文房具・動作（歩く・走るなど）など
		・英語をよく聞き、大きな声でまね、英語と日本語の発音の違いに触れる。	
		・単語およびそれに伴う会話表現に触れ、全体またはペアでコミュニケーションを図ろうとする。	
中学年	慣れる・親しむ	・英語での挨拶や簡単な英語でのやり取りを進んでやろうとする。	挨拶・自己紹介・気持ち・月・曜日・天気・数・色と形・果物・野菜・動物・スポーツ・アルファベット・学用品・動作・遊び・体の部位・様子（長い・毛があるなど）・生活日課・時間など
		・单元ごとに、単語やそれに伴う会話表現を「目的・場面・状況」を明確にした上でチャンツやゲームを活用し、自分の伝えたいことを含め、コミュニケーションを図ろうとする。	
		・单元ごとに様々な国の文化に触れ、異文化に興味・関心を持てるようにする。	
高学年	親しむ・伝え合う	・英語の音や文字、文構造などについて日本語と英語の違いに気づき理解しつつ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことに慣れ親しむ。	挨拶・自己紹介・行事・月・日付・時間・感情・飲食物・スポーツ・生き物・色や形・アルファベット・学用品・教科・曜日・職業・動作・位置・場所・値段・施設・道案内・世界の国名・動詞の過去形・助動詞（can, can't）・3人称など
		・单元ごとに、単語やそれに伴う会話表現を「目的・場面・状況」を明確にした上でチャンツやゲームを活用し、自分の伝えたいことを含め、コミュニケーションを図ろうとする。	
		コミュニケーションは双方向の活動であることから、「聞く」際のリアクションを大切に、外国語の背景にある文化に対する理解を深めつつ、よりよいコミュニケーションを図ろうとする。	

5 各学年の活動の様子

【低学年】◎英語に触れる・慣れる

1年：からだ めあて：えいごでからだをいおう。



どんなモンスターができるかな。



Two eyes, please.



おもしろいモンスターが完成しました！

ペアになって、習った体の単語を言いながらモンスターを作っています。

2年：動物 めあて：動物の言い方に慣れよう。



スモールトークを真剣に聞いて、めあてを考えています。



Moo Moo

What animal is this?

児童の好きなジェスチャーゲームで、興味を持たせます。



ちょうど、この時期に社会科見学で『こどもの国』を訪れたこともあり、積極的に発言している様子が伺えます。社会科見学では、動物を見ては、楽しんで習った単語を発話していました。

【中学年】◎英語に慣れる・親しむ

3年：形や色・数

めあて：ほしい物の形や色、数を聞いたり、答えたりできる。

スモールトークの内容を確認しているところです。今までの学年で習ったことを思い出させながら、HRT が授業を進めています。

Let's me try!

What shape do you want?

I want...

お気に入りの形や色が入ったTシャツを作れたよ！

代表がみんなの前でロールプレイをしています。その際も担任が手助け・声掛けをしています。



4年： What do you want? ほしいものはなにかな？

めあて：ほしいものが何か、またいくつほしいか伝え合おう。

"What do you want?"

"I want strawberries, please."

「プラスアルファで言いたいことは？」と聞くと、「いくらですか？」という児童もいて、実際の場面を想定し、意欲的に英語で会話しようとしていました。

店員さん(shop keeper)とお客さん(customer)に分かれて、楽しくやりとりをしているところです。



【高学年】◎英語に親しむ・使う

5年：I want to go to Italy 行ってみたい国や地域

めあて：調べた国の紹介をしよう！



英語の教科書だけでなく、図書資料も活用しながら、調べています。グループで協力しながら調べた国について資料を完成させました。児童が進んで取り組む姿が見られました。

進んで発表する姿が伺えます。



This country is...

You can see...

調べた国の食べ物や有名な物などを踏まえて、発表することができました。

6年：What do you want to watch? オリンピック・パラリンピック

めあて：観たいオリンピック・パラリンピック競技が何かを伝えよう！



めあてにつなげるスモールトーク。時々、児童に直接質問して、めあてにつなげることもあります。

What do you want to watch?

I want to watch gymnastics!



言いたい単語がない場合は、その都度HRTかJTEに聞くように指導しています。常に自分が言いたいことが言えるように支援できるように心がけています。

集中して振り返りをしているところ。特徴的なのは、3、4年生では授業のたびに単元名をなぞり書きしています。また5年生ではなぞり書きから徐々に書き写しの作業も増え、6年生では毎回、その授業で大切な表現を書き写ししています。このような過程があり、嘉数小学校の児童は、書くことに対してとても意欲的です。



6 成果と課題・対応策・要望

(○成果 △課題 ☆改善策 □要望)

低学年

- ミーティングを確実にを行うことで、意見交換ができ、計画通りに児童の実態に合った授業を進めることができた。
- ALT・JTE が教材研究を密にしてくれ、教材教具が豊富で、児童が興味を持って活動に取り組めた。
- 歌やゲームに積極的に取り組む児童の姿が見られた。
- △文化（ハロウィンやクリスマスなど）についてのトピック紹介を増やしてほしい。
- △一部の参加できない児童への対応の仕方を考えていきたい。
- △全体練習の時にきちんと発話していない児童がいる。
- ☆ハロウィンをなぜやるのか、他国の食べ物や行事など、国際理解のトピックを入れていく。
- ☆ペア学習や振り返りで確実に一人ひとりが授業中にアウトプットする機会を取っていく。

中学年

- 毎週の英語ミーティングが充実されているので担任と ALT・JTE との授業展開がスムーズにできた。
- 授業の流れが決まっているので、児童も戸惑わずに授業に臨むことができる。
- 数名の児童が、日常的に英語を使おうとしたり、英語で何というのかを尋ねたりと、積極的な姿が見られる。
- 楽しい教材や活動が準備されており、ほとんどの児童が「英語が大好き」と答えている。
- ポイントシールを活用することによって、学習意欲が高まった。
- 振り返りシートを書くことで、めあてが確実に達成されたか確認することができた。
- △数名の児童がねらいを意識した活動になっていないため、定着が弱くなる傾向がある。
- △学級担任の英語力をもう少し高めたい。
- △英語活動に進んで参加できない児童への手立てを考えたい。
- ☆HRT と協力し、児童の実態に合った活動を考えていく。
- 英語専科の設置をしてほしい。

高学年

- レッスンプランがきちんとできているので、スムーズに授業を行うことができた。
- 毎週の英語のミーティングで、役割分担や授業展開の見通しが持ちやすい。
- アルファベットチェックを細かくし、書くことに抵抗が少なくなったように感じる。
- ALT・JTE がいつも明るい雰囲気です授業してくれるので、英語が好きな児童が多い。
- △英語ミーティングの時間設定がなされているが、時間通りに実施できないことがある。
- △T1. T2 の役割分担がうまくいかず、ALT や JTE に負担をかけてしまっている。
- ☆きちんとミーティングを行い、役割分担を把握する。
- 英語教室にも電子黒板を設置して欲しい。
- 子ども達の意欲に繋がったり、教材研究も深まるため、英語は専科になって欲しい。